

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学び合う子どもの育成					
重点目標		①学力の向上と指導力の向上 ②社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ③一人ひとりの居場所がある学級集団づくり ④健やかな心と健やかな体づくり ⑤家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
基礎・基本の徹底と授業改善	○基礎的、基本的な知識・技能を習得する	・朝学習を計画的に実施することにより、基礎・基本の定着を図る。 ・家庭学習の習慣化をより一層図る。	・学級での朝学習を日課とする。 ・家庭学習に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。	B	・各学年で行っている朝学習について情報交換し、計画的に取り組んだ。 ・家庭学習に関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した5.6年生は87%だった。保護者、教職員については85%を上回らなかった。 ・各学年の目安となる時間を示し、それに向けて家庭に協力を呼びかけながら取り組ませた。	・家庭学習の取り組みについては、意欲向上に向けた課題を工夫するとともに、今後も家庭と連携を取りながら充実させていく。 ・家庭学習の時間を確保するために、自主学習や読書を積極的に取り組むよう指導していく。	・やる気をおこさせる工夫、教師のコメントや評価の継続が家庭学習の習慣を定着させると考える。目標を持たせたり、内容を工夫したりして家庭学習に取り組ませてほしい。
	○学習指導の工夫・改善	・目標と評価を一体化させたわかりやすく、楽しい授業づくりの工夫をする。	・わかりやすい授業づくりに関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した児童と保護者、教職員が85%以上。		・わかりやすい授業づくりに関するアンケート項目において、「あてはまる」と回答した5.6年生は86%、保護者95%、教職員が94%だった。 ・夏季研修会等を活用しながら、児童につけたい力を共通理解し、教職員で学力向上プランの作成をすることができた。 ・つけたい力を意識した学習指導ができた。 ・目標と評価を一体化した授業作りをすることができた。	・引き続き研究推進部と連携しながら、授業改善を図り、学習指導のあり方を見直す。	・家庭と連携して、家庭学習に取り組む環境作りを行う必要がある。
	○児童の個性を生かす	・互いの良さをを見つけ、互いに聴き合う仲間づくり ・授業にペア学習やグループ学習を取り入れる。 ・どの教科においても書く活動を取り入れることで、学力の定着をはかる。	・誰とでも関わり合い、認め合うことができる。 ・「書く活動をとりいれる」ことについての教職員アンケートにおいて、「あてはまる」と答えた教師が80%以上。		・どの学級でもペア学習、グループ学習を授業の中に取り入れることができた。また、全体交流の場で、関わりを深める姿を見ることができた。 ・授業に「書く活動をとりいれている」教師は97%で、ほとんどの教師が何らかの形で書く活動に取り組むことができた。 ・書く活動の内容の精査や、年間計画に則した取り組みが必要である。	・引き続きペア学習、グループ学習に取り組み、子どもたち同士の学びあう姿勢を育てる。 ・書くことについての具体的な取り組みを系統化し、年度当初から計画的に取り組む。	・授業に対する教師の意欲を感じる。その意欲が子どもたちの意欲につながっていくと思われる。 ・授業のめあてにそって、ペアやグループなどの集団活動を活用し、子どもたちの発言の場を広げてほしい。
特別支援教育の推進、充実	○計画的・組織的な支援体制の整備 ○個別の指導計画の作成	・共に生き、ともに学ぶ学級・学校の実現を図る。 ・子どもや保護者の思い・願いを受け止めながら支援する。 ・普通学級における個別の指導計画の作成	・特別支援教育のあり方や、様々な子どもの特性、ニーズについての研修を年間3回行う。 ・関係諸機関との連携をとりながら、クラス、学年、学校全体での支援体制を整える。	B	・夏季の研修において、本校における特別支援教育の体制とステップぐんぐんについて、職員の共通理解を図った。 ・1月にインクルーシブ教育についての研修会を実施した。 ・特別支援学級において学期ごとの指導計画を作成した。 ・通常学級に通う支援の必要な児童について2回の研修会を重ね、職員の共通理解と研修を行った。 ・支援の必要な児童について、ケース会議を開き、共通理解と今後の支援体制を話し合った。 ・ステップぐんぐんを所持している児童について、通常学級においても個別の指導計画を作成し、指導にあたるように体制づくりを行った。 ・支援の必要な児童について、関係諸機関との連携・交流を行った。	・特別支援学級担任、特別支援教育支援員、特別支援教育コーディネーターと各担任との連携を密にし、支援体制の強化・改善を図る。 ・通常学級におけるステップぐんぐんについてと個別の指導計画作成の周知を徹底させる。 ・関係諸機関との連携・交流を密にする。	・子どもたちの特性に応じた支援方法が共通理解されていることが大切である。関係機関との連携のあり方を工夫するとともに、支援方法の改善に努めてほしい。

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学び合う子どもの育成						
重点目標		①学力の向上と指導力の向上 ②社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ③一人ひとりの居場所がある学級集団づくり ④健やかな心と健やかな体づくり ⑤家庭・地域・関係機関との連携						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
豊かな心・健やかな体	問題行動への指導・対応	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会などを行い、職員間で児童理解を深めると共に、指導力の向上を目指す。 ・「いじめ対策基本方針」について、改めて共通理解を図る。 ・「いじめアンケート」調査を実施し、適切な対応を図る。 ・不登校傾向にある児童の家庭と連携を図り、関係機関につないでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回、生活指導部会を開き情報交換を行い、問題行動については組織的な対応を行う。 ・年度初めと夏季、年度終わりに研修会を開く。 ・いじめ対策委員会を月1回開く。 ・児童アンケート「困ったときや悩んだときや不安なときに、相談できる先生がいる。」と回答する割合が80%以上になる。 ・不登校傾向にある全ての家庭と連携しながら、関係機関につなぐ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の部会で定期的に情報交換を行うことで、問題行動を把握し、組織的に対応できた。 ・年度初めと夏季の研修会では、目的を絞った話し合いを行うことができた。 ・情報交換と併せて、対策委員会を行うことで、いじめにあたるような事例にも早めに対応することができた。 ・児童アンケートの結果は、68.8%で前年度と比べるとやや減少している。引き続き職員の資質や指導力の向上を目指して、カウンセリングマインド研修等、研修会を工夫しながら継続的に実施していく。 ・不登校傾向にある児童については、家庭と連携しながら、関係機関につなぐことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修等を行うと共に、困ったことや悩みを打ち明けやすい学級作りに向けて、言葉がけや子どもとの関わり方なども、見直していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でも家庭教育の必要性を感じている。プライバシーに配慮した情報交換を行い、地域や保護者、関係機関が連携した見守りを継続していく必要がある。 	
	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導体制の整備 ○思いやりの心をもつ子どもの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活目標や生活のきまりを守るように、日頃からの声かけや全校集会での話、掲示物を工夫する。 ・学年会や部会などで、児童の生活の様子について振り返る機会を持ち、全教職員の意識を高める。 ・学校教育活動全体を通して一人一人の児童が道徳的価値を理解し、道徳的な実践意欲と態度の育成に取り組む。 ・副読本やルールブック等を活用して、効果的な道徳の授業を展開する。(わたしたちの道徳や実話や偉人の資料の活用) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート「子どもはあいさつなど基本的な生活習慣が身につけている」回答する割合が90%以上になる。 ・児童アンケート「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてくれた。」と回答する割合が90%以上になる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの結果は、90.6%だった。前年度の結果(89.6%)と併せて考えても、達成目標をクリアできてきていると考えられる。 ・児童アンケートの結果は、93.7%だった。こちらも90%以上で目標を達成できた。 ・普段からの声かけなど、教職員の意識向上も一つの要因であると考え、今後も引き続き、こまめな指導を継続していく。 ・副読本やルールブック等を活用して、効果的な道徳の授業を展開することができた。 ・副読本やルールブックを繰り返し読書する児童が増えた。 ・児童アンケート「自分を大切にすることや、他人への思いやりについて教えてくれた。」と回答する児童の割合が93%であった。 ・道徳教育副読本を活用した「親子読書」の実施で、家庭や地域との連携に繋がっていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も引き続き、こまめな指導を継続していく。 ・道徳の時間での学びを学級活動として実践的に活動できる機会を作る。 ・朝読書や長期休暇日などの家庭読書としての活用を促す。 ・家庭に対して、「親子読書」を推進していく。 ・学校便りや学年通信での周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね良好である。
	体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○体力づくり ○健康な身体・心身の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域における系統的な学年カリキュラムの整備を行う。 ・児童の体力向上を図る。学校行事を企画し実施する。 ・保健学習参観を中心としたカリキュラムに応じた保健学習の実施、「ほけんだより」を活用した保健指導の実施により生活習慣の改善を図る。 ・懇談の機会を利用して、個別にむし歯・歯肉炎の治療や視力低下児童の早期受診を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育時数の確保ならびに、学年内の教材研究を深める。 ・学校水泳では25m泳げる児童を増やす。(4年生以上が9割以上到達する) ・体育大会、ドッジボール大会、縄跳び週間などをきっかけに継続的な体力向上を目指す。 ・睡眠、食事、身の回りの清潔等生活習慣の改善を図る。 ・むし歯・歯肉炎・視力低下で一度も受診していない児童の解消をめざす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとの教材研究は単元ごとに深めることができたが、時数に関しては体育大会の練習等で増えてしまった。 ・5年生は86%、6年生は90%と概ね到達することができた。4年生は60%台と達成することができなかった。 ・体育大会やドッジボール大会、長縄の練習などを通して、休み時間に外に行く児童が増え、体力向上に繋がった。 ・カリキュラムに応じた保健学習の実施、「ほけんだより」を活用した保健指導の実施については、高学年児童81.4%保護者97.8%教職員94%と高率を維持している。 ・長期休業明けに「すくすくチェック」を実施し、生活リズムづくりへの意識化が図れた。寝る時刻が22時以降の児童が31.8%と高く、特に金曜夜から寝る時刻が遅いため改善必要。 ・懇談の機会を利用して、個別にむし歯・歯肉炎の治療を呼びかけ、一度も受診していない児童が2.6%(昨年3.5%)とわずかながらも改善した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育大会の練習時間に、取り過ぎないように各学年に伝え、取り過ぎた分は、まとめてではなく、少しずつ体育の時数を調整する。 ・学校水泳の指導方法や進め方などを研究する。 ・すくすくチェック結果をもとに、週末に遅くまで起きていたり、平日より起きる時刻が遅い家庭の習慣を改善するように家族の協力が不可欠であることを呼びかけていく。 ・懇談の機会を利用して、個別にむし歯・歯肉炎の治療を呼びかけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力が付いてきているのが素晴らしい。今後も外遊びを奨励し、仲間づくりを大切にするとともに、体力向上に努めてほしい。

教育目標		命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校 一心豊かで 意欲的に学び合う子どもの育成					
重点目標		①学力の向上と指導力の向上 ②社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ③一人ひとりの居場所がある学級集団づくり ④健やかな心と健やかな体づくり ⑤家庭・地域・関係機関との連携					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールや授業参観で学校を公開し、学級懇談会、講演会などで情報を発信する。 ・ホームページでタイムリーな情報を発信する。 ・多くの職員がホームページの更新作業に関わることができるよう、マニュアルを配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回のオープンスクールと年5回の授業参観を実施し、参加者が増えるような学級懇談会、講演会を工夫する。 ・各学年の活動の様子を月2回を目安に更新する。 ・近日中の連絡や予定をホームページで知らせる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回のオープンスクールと年5回の授業参観を実施することができた。 ・昨年度の反省をふまえて学級懇談会、講演会を工夫したが、参加者が少なかった。 ・各学年が活動の様子を12月までに月平均約1.52回更新した。月間予定も更新し、近日中の予定もトップページで知らせた。 ・更新作業に関するマニュアルを配布し、更新作業に関わる職員が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の参加人数を記録し、学級懇談会・講演会の実態を把握する。 ・講演会は、保護者の参加が増えるよう、日時や内容を熟慮する。 ・職員間で内容の情報交換し、さらに参加者が増えるような学級懇談会を工夫する。 ・各学年の活動の様子を月2回更新するために、学年内で役割を分担する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が、学校行事や地域行事によく参加している。参観日等の保護者のマナーも良くなった。さらに意識が高まるよう工夫をお願いしたい。 ・外来者を迎える先生方の挨拶が素晴らしい。学校を地域に開こうとする姿勢がうかがえる。
	危機管理体制・教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○安全教育の取り組みと避難訓練の実施 ○学校教育環境充実のための取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種危機管理マニュアルの作成。 ・避難訓練の実施。 ・防犯訓練の実施と、防犯設備の充実。 ・定期的な安全点検や、登下校指導。 ・交通安全教室の実施。 ・事故防止の連絡、啓発の促進。 ・清掃用具の点検・充実。 ・委員会活動との連携。 ・職員作業として、周辺環境の整備。 ・清掃用具の見直しを行い、その場にあった用具を使う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の避難訓練、年1回の防犯訓練を実施し、教職員・児童共に緊急時の適切な対応について理解し、身に付ける。 ・トランシーバー研修を行い、職員の、緊急時の連絡方法について理解を深める。 ・年16回の登校指導、年10回の下校指導を行う。引継ぎノートを活用し、課題のある登下校路について、継続的に指導する。 ・学校周辺の事故の連絡などを行い、危機意識を高める。 ・清掃道具を充実させる。 ・壊れたままの清掃用具をOにする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の避難訓練や、年1回の不審者対応訓練などの緊急時の対応を想定した訓練を計画実施することができた。しかし、雨天で本来の避難経路を使えなかった事や、行事が重なり同じ曜日での訓練が多くなってしまったことが課題として残る。 ・不審者対応訓練や保護者同伴下校などで、トランシーバーを活用する事ができ、トランシーバー利用に対する習熟度を高める事ができた。 ・年16回の登校指導や年10回の下校指導の際に、報告用のノートを活用することで、登校や下校状況の職員間での相互理解を進めることができた。 ・安全への危機意識については、3年生の自転車安全教室などを通して、子ども達の意識の向上を図った。 ・今年度は学校周辺で事故が起こらなかったため、連絡などは行わなかった。 ・委員会活動と連携し清掃用具の点検、修理をすることができた。 ・夏休みに職員作業として学校周辺の清掃・整備ができた。 ・清掃場所にあった清掃用具の見直しを行った。 ・壊れたままの清掃用具をOにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練については予備日を設定し、天候だけでなく、実施状況も鑑みながら変更をしていく事が心がける。また、雨天でも実施ができ、より効果的である訓練内容を考えていく。 ・長期休業前の安全指導や緊急時の対応については、児童、保護者へ繰り返し説明をしていく事を徹底する。 ・緊急時に不具合が発生しないよう、放送設備の改善を続けることが必要である。 ・登下校指導の報告ノートを引き続き活用し、安全に児童が通学できるように、職員間で共通理解を進めていく。 ・事故の報告や安全意識の啓発促進については、子ども達の意識を高めるために、来年度も引き続き行っていく。 ・清掃用具の修理や見直し、学校周辺の清掃、整備を継続して行う。 ・壊れたままの清掃用具がOになるよう声かけを続ける。

教育目標 **命輝き 笑顔あふれる 天神川小学校** 一心豊かで 意欲的に学び合う子どもの育成

重点目標 ①学力の向上と指導力の向上 ②社会規範意識の向上を図る生徒指導の徹底 ③一人ひとりの居場所がある学級集団づくり
④健やかな心と健やかな体づくり ⑤家庭・地域・関係機関との連携

項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
教職員の資質向上	教職員の研修の充実	○授業の質を高める授業研究	・校内研修として、年1回以上授業を公開する。 ・授業の質を高めるための教材研究や研修、研究を充実させる。 ・主体的に学習に取り組むために、めあて・ふりかえりを取り入れる。	・全教員が年1回以上授業を公開する。 ・年9回の校内研究と、随時スキルアップ研修を行う。 ・主体的に学習に取り組むために、めあて・ふりかえりを工夫する。	B	・授業公開を実践することができ、自身のスキルアップにつなげることができたが、授業者として意見・感想等のフィードバックを得られる場合が少なかった。 ・公開される授業を見に行く時間がとれず、参観者が少なかった。 ・研修会では、授業づくりの基礎について講師の先生から新しい知見を得ることができた。 ・スキルアップ研修会は、行事等が忙しく数回しか設定できなかった。 ・「めあて」「ふりかえり」の掲示物を作成した結果、多くの教室で使われている。 ・「めあて」が子どもたちの学びあいを支えるものになっているか、検証が必要である。	・参観者にコメントカードを配布し、授業者が手ごたえを得られるようにする。 ・学団で声を掛け合い、参観者をふやす工夫をする。 ・年間計画を立ててスキルアップ研修を充実させる。 ・引き続き、「めあて」についての理解を深めるため、研修を進めていく。	・若い先生方が、増えてきている。子どもたちとの関係作りに期待をしている。ますます指導力や授業力を付けてほしい。
		○全教職員の学校目標達成に向けた参画	・学校教育目標に向けたPDCAサイクルに基づいた教育活動を実施する。	・学校教育目標に関するアンケート項目について、「あてはまる」と回答した教職員が85%以上。	B	・学校教育目標に関して、「あてはまる」と回答した教職員は85%を上回らなかった。 ・学校教育目標達成に向け、全教職員の共通理解を深め、学校教育活動を実施する。	・教育課程部と研究推進部、生活指導部が連携し、児童の現状を踏まえた学校教育活動を実施する。	・児童会活動などの自主的な取り組みが素晴らしい。今後もますます自主性のある活動を進めてほしい。
		○児童の現状を踏まえた教育課程の編成	・学校教育活動における課題や果たすべき役割を互いに共有化し、連携して学校教育活動を実践する。	・「学校へ行くのが楽しい」と回答した児童及び、「学校へ行くのを楽しみにしている」と回答した保護者がいずれも85%以上。	B	・「学校へ行くのが楽しい」と回答した5.6年生は89%。「学校へ行くのを楽しみにしている」保護者は94%だったことから、児童の現状を踏まえた教育課程を編成し、実施することができた。	・児童が活躍する場面を意識的に作り、児童の自尊感情を高める。	
学校の現状を踏まえた教育課程・組織運営	校務分掌等の連携	○一人一役の校務分掌、職場の同僚性	・学校教育活動における課題や果たすべき役割を互いに共有化し、連携して学校教育活動を実践する。	・「校務分掌上の一人一役など仕事の分担が適切で、教職員集団として適切に機能している」と回答した教職員が85%以上。	B	・「校務分掌上の一人一役など仕事の分担が適切で、教職員集団として適切に機能している」と回答した教職員は85%を上回らなかった。 ・連携して学校教育活動を実施できているが、学校教育活動における課題や果たすべき役割を互いに共有化してることが課題である。	・常に情報交換し、互いに課題を共通理解しながら、組織的に学校教育活動を実施する。 ・今後も、職場の同僚性を高めながら、組織として動いていく。	・概ね良好である。

学校関係者評価総括
 ・家庭学習の与え方、内容や評価の工夫などにより家庭学習を推進し、基礎基本の定着を図られたい。また、家庭と連携して、子どもたちが意欲的に学習に取り組む環境作りを推進してほしい。
 ・教師が授業や子ども理解に臨む姿勢が、子どもたちの学習意欲の向上や学校生活への意欲につながる。今後も、ますます授業力や指導力の向上に努められたい。
 ・子どもたちの自主的な活動の取り組みや教師の地域に学校を開く姿勢が、評価される。今後も、保護者や地域、関係機関と連携を強化し、児童の健全育成に努めてほしい。
 ・災害に対する備えや交通安全、日頃のきめ細やかな環境整備により、安全で安心な学校生活を推進してほしい。

次年度に向けた重点的な改善点
 ①家庭学習の徹底とさらなる授業改善により、基礎基本の定着を図る。また、児童が意欲的に取り組む学習環境作りに努める。
 ②教師の授業力・指導力の向上に努め、情熱を持って学校教育活動を推進するとともに、協働して取り組む同僚性の高い職員集団づくりを進める。
 ③児童の自主性を高める取り組みを進め、自己有用感を高めるとともに、生活習慣の安定と安全・安心の学校環境作りにより児童の健全育成に努める。
 ④学校教育目標達成のために保護者・地域・関係機関との連携を強化し、地域とともにある学校づくりを推進する。